

コミュニケーション指導実践シート

対象	中学部	教科・領域等	美術
場所	教室	学習形態	集団学習

1 生徒の実態

コミュニケーション面では、簡単な日常会話や指示を理解し、仲間や教員と言語を用いた関わりをする生徒や、主に視線の動きや発声、身体の動きで表現をする生徒等、個々に障害の状況は様々である。

2 生徒の目標

- ① 教員と相談しながら、使用する道具を選択し教員に伝えることができる。
- ② 自分の作品の頑張ったことを表現することができる。
- ③ 仲間の作品に注目することができる。

3 実践

<指導の手立て>

- ① 選択場面では、教員間で生徒の「はい」「いいえ」の価値付けの共通理解を図り、実態に応じた支援方法の統一をすることで、表現方法の確立を図る。
- ② 自分なりの言葉や発声、動きができるよう、教員は実態に応じた言葉掛けを行う。
- ③ 鑑賞場面では、仲間の作品のみ注目するよう、刺激を取り除く等の環境整備を行う。

① 道具の選択

生徒の実態に応じて、AとBどちらが使いたいか、この中でどの道具を使いたいか等、目の前に道具を提示する。「使いたい、気になる」道具が提示された際に、自分なりの表現方法で教員に伝える。

② 作品の発表

実態に応じて（自分の言葉で表現する、「〇〇をがんばりましたか？」→「はい」「いいえ」）言葉掛けによる支援を行い、自分なりの表現方法で頑張ったことを発表する。

③ 作品の鑑賞

頑張ったことの発表の際に、お互いの作品を見たり触れたりする中で、感じたことを発声や動きで表現する。



4 生徒の変容（成果：○、課題：△）

○「はい」「いいえ」等の表現方法が定着しつつある。

△選択場面、お互いを意識し合う場面を他教科・領域でも取り入れる必要がある。